

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	音楽	種目	オーケストラ等
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	アンサンブル・ルヴァン		
	制作団体名	Ensemble Levent		
	代表者職・氏名	代表・兼清颯		団体ウェブサイトURL
				https://ensemblevent.com/
	制作団体所在地	〒 107-0062	最寄駅(バス停)	表参道
		東京都港区5-17-2-502 シドニービル内		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	平成26年4月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		代表 兼清颯 理事 石田彩子・古土井友輝 会計 芝宏輔	代表1名・理事2名・楽団員13名・事務局1名・加入には実技試験等含め、現構成員の過半数の承認を必要とする	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	木村 美紗季
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	能瀬 愛加
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		info@ensemblevent.com		0362608489

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>【沿革】</p> <p>2014年に当時東京藝術大学を卒業したメンバーを中心に結成。主催公演をきっかけに“風”を意味する「Ensemble Levent(アンサンブル・ルヴァン)」と命名し、活動を本格的に開始。フレデリック・フェネル氏が提唱した「ウィンド・アンサンブル」の思想に基づき、「管楽器各種1本」に「打楽器」を加えた13人管打楽室内合奏団として日本唯一の編成で活動している。金管5重奏+木管5重奏+打楽器2重奏を団体構成の基盤とすることで、独奏、アンサンブル、吹奏楽編成まで多彩な編成で公演を行なうスタイルに好評の声が多い。結成翌年2015年には学校公演を開始するとともに吹奏楽部の外部指導『ルヴァン・クラブ』をスタートし、プロフェッショナルな演奏団体でありながら教育機関に根付いた団体として独自の活動を展開。昨今の部活動地域展開においては大学法人などと連携して子どもの音楽教育の土壌を保つ活動も行う。年間の吹奏楽部指導回数は300回を超え、「学校(や保護者)との円滑な連携」にも定評がある。オペラシティリサイタルホール、サントリーホールブルーローズといった会場での主催定期公演のほか、行政からは港区、北区、文京区、銚田市といった各地域から依頼された公演も行う。</p> <p>【受賞歴・採択実績等】</p> <p>2019年～2024年まで『港区文化芸術活動サポート事業』に6年連続採択され、助成公演として能楽堂にて尺八と木管五重奏の公演を開催する、学校公演に和太鼓を取り入れる等、“日本独自の西洋音楽団体”としてのアプローチを積極的に行なう。</p> <p>2020年 光山文化財団助成公演として採択され小編成吹奏楽による公演「Ensemble Levent 5th Concertフレデリックフェネルを讀えて」を開催。2022年には東京オペラシティにて単独公演を開催。文化庁「文化芸術活動の継続支援事業(2020年)」、「ARTS for the future!(2022年・2023年)」採択</p>
	学校等における公演実績	<p>【令和3年度】北区立神谷小学校・北区立柳田小学校スクールコンサート・江戸川区立西小岩小学校・福岡双葉小学校・北区立西浮間小学校・江戸川区立臨海小学校・銚田市立旭東小学校・銚田市銚田南中学校・銚田市立つばさ幼稚園・流山市立長崎小学校・江戸川区立船堀第二小学校・江戸川区立船堀小学校・江戸川区立船堀第二小学校・江戸川区立船堀第二小学校・江戸川区立篠崎第三小学校にて実施(15校20公演)</p> <p>【令和4年度】江戸川区立東小松川小学校・江戸川区第四葛西小学校・江戸川区立西小岩小学校 & 下小岩小学校・北区立王子小学校・江戸川区立東小松川小学校・江戸川区立船堀小学校・北区立神谷中学校・江戸川区立船堀第二小学校にて実施(8校10公演)</p> <p>【令和5年度】江戸川区立船堀小学校・江戸川区立船堀第二小学校・東京都立中野工業高等学校・北区立赤羽小学校・北区立八幡小学校・北区立稲田小学校・開智望中等教育学校にて実施(7校11公演)</p> <p>【令和6年度】令和6年度文化庁巡回公演事業実施団体として関東圏(Cブロック)26校にてワークショップ及び本公演(52公演)を実施。そのほかの学校公演も含めると年間62公演以上(予定を含む)となり、年間学校公演数としては過去最多となる。(34校62公演)</p> <p>【令和7年度】令和7年度文化庁巡回公演事業実施団体として中国地方圏(Gブロック)16校にてワークショップ及び本公演(33公演)を実施。年間学校公演数は(21校40公演)</p>
	特別支援学校等における公演実績	<p>【平成30年】綾瀬なないろ園“成人を祝う会”にて演奏実施</p> <p>【令和元年】北区立あすなろ福祉園にて実施</p> <p>【令和3年度】東京都立王子特別支援学校にて実施</p> <p>【令和6年度】令和6年度文化庁巡回公演事業として愛育学園・千葉大学教育学部附属特別支援学校・都立八王子東特別支援学校の3校にてワークショップと本公演(計6公演)を実施。</p> <p>【令和7年度】令和7年度文化庁巡回公演事業として岡山大学附属特別支援学校にてワークショップと本公演(計2公演)を実施。</p> <p>特別支援学校の実情に合わせてプログラムや編成の創意工夫をしたり「楽器に触れる体験」なども交えて聴覚以外(触覚・視覚)での鑑賞アプローチも積極的に活用するなどして、好評を得ている。</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/BmXO2hjG_i4
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:
		PW:

別添

あり

【公演団体名

Ensemble Levent

】

対象

小学生(低学年)

○

小学生(中学年)

○

小学生(高学年)

○

中学生

○

企画名

変幻自在！？管打楽器アンサンブルの七変化 ～“ともに創る”音楽会～

企画のねらい

同巡回事業において過去2年度にわたりご好評(計42校に選んでいただき「過去聞いた公演の中でもとてもよかった」というお声をいただきました)をいただいてきた同企画を今年はより洗練、充実させ、子どもたちの記憶に残る公演としてお届けしてまいります。多様なアンサンブルによる音楽や演奏家の人間的魅力の訴求に加え、迫力ある大編成での演奏、さらには西洋音楽と日本音楽の対比と融合による文化の交流を「今を生きる作曲家の作品(委嘱作品)」も通しながらお伝えしていきます。今年度は現場にて評価いただいた演目を基本に据えた上で、当団体の強みでもある「ともに創る」をテーマに掲げ公演をより強く子どもたちの“思い出(記憶)”として残してもらえよう試みます。具体的には、多様な体験(参加型)プログラムに加え、生徒が自分たちで当日の演奏楽曲の選択に関わるプロセスを設けるなど、演奏会そのものに関わる内容を取り入れ、当日に至るまでの子どもたちのワクワク感を創出・共有し、その日1度きりの公演を過程も含めて関わることでより色濃く記憶に残してもらうことをねらいとして実施します。

演目概要・演目選択理由

たった独りの和太鼓で始まるコンサート。各奏者による独奏曲から、打楽器二重奏、木管・金管五重奏と曲目ごとに異なる編成でお届けする本プログラムは、クラシック音楽を初めて生で聞く子ども達でもそれぞれの楽器の音をわかりやすく認識でき、各楽器が重なり合うことで生まれる美しく多様なハーモニーも視覚的に捉えることができるコンサートとなっています。大人数のオーケストラもいけれど、一つ一つの楽器が持つ独特の“音色”やアーティストの人間性＝“個性”をもっと直に感じてほしい。編成(人数)が変わることで、浮き彫りとなるそれぞれの音の魅力を伝える演目はまさに管打楽器アンサンブルの「七変化」です。→【別添あり「No.2演目選択理由」】

児童・生徒の参加または体験の形態

私たちはこれまでの学校公演(芸術鑑賞会)プログラムにおいて“子どもたちにより記憶に残る時間にしてほしい”という観点から「ともに創る」をテーマに掲げ、単なる体験だけでなく、時には企画立案そのものにも参画できる「ともに創るコンサート」を学校の先生や生徒さんたちと創り上げてきました。本企画でも、各学校の実態に合わせた体験やプログラムを盛り込めるように選択式の共演演目を設けて学校に寄り添うとともに《指揮者体験》《事前にお渡しするCDを校内放送などで聴いてもらい投票の上当日曲を決定する演目》、《校歌演奏(or共演)》《コールアンドレスポンスからのシングシングシング》を取り入れ、コンサートを取り入れ単に聞くだけではなく「ともに創った実感」を得られるようにします。 *太字は学校負担も考慮の上楽曲選択方法を決定

児童・生徒の参加可能人数

本公演

参加・体験人数目安

指揮者体験3名,その他共演は該当者

鑑賞人数目安

1～500名程度まで

本公演演目

原作/作曲
脚本
演出/振付

～独りからアンサンブルへ～ *赤字箇所は体験型プログラム
《和太鼓独奏》紅炎 / 永野雅晴 作曲
《管打楽器13重奏》アルセナール / ヤン・ヴァン・デル・ロースト 作曲
《木管5重奏》主よ、人の望みの喜びよ / J.S.バッハ 作曲
《金管5重奏》アメージング・グレース / 作曲者不詳
《指揮者体験》アルセナール / ヤン・ヴァン・デル・ロースト 作曲
《管打楽器13重奏》パンチネロ / アルフレッド・リード 作曲(小学校低学年の場合:春の猟犬/アルフレッドリード)
→【休憩】
《みんなで決めよう！今、あなたが聞きたいのは？！》(3曲中から1曲を事前投票にて決定→当日発表・演奏します)
《木管・金管楽器独奏》①リベルタンゴ/ピアソラ ②サキソフォピア/ヴィードフ ③トランペット吹きの日(トランペット)/アンダーソン
《管楽6重奏+和太鼓》獅子踏青(しとうせい)～新緑に裸で獅子の舞～/中村匡寿 *当団体オリジナル委嘱作品(2024年)
《打楽器二重奏》カムシン/セジョルネ or Double/永野雅晴
《共演(任意)》合唱もしくは吹奏楽部との共演など (選択例) Believe、Tomorrow等
《管打楽器13重奏》シング・シング・シング / ルイ・ブリマ 作曲
【アンコール】各校校歌・ラデツキー行進曲

公演時間

90

分

出演者

石田彩子(フルート)、佐竹真登(オーボエ)、西澤いずみ(クラリネット)、楠木慶(クラリネット)、大内秀介(ファゴット)、山崎憂佳(サクソフォーン)・古土井友輝(トランペット)・重井吉彦(トランペット)・金子美保(トランペット)・堀口はるな(ホルン)、竹内優彦(トロンボーン)、兼清颯(ユーフォニアム)、芝宏輔(チューバ)、永野雅晴(打楽器・和太鼓)、永野仁美(打楽器)他
*詳細プロフィール別添資料あり→【別添あり「No.2別紙メンバー表」】

演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名

兼清颯(ユーフォニアム・企画代表)東京藝術大学卒業。NPO法人音楽ネットワークのオーディションに合格し文化庁「文化芸術による子どもの育成事業」にユーフォニアム奏者として参加。Ensemble Levent代表として令和6・7年度巡回公演事業を始め多くの企画を生み出し実現している。また自身が学校での勤務経験を持つことから学校現場にも精通しており教員・保護者・生徒とのコミュニケーション力にも定評がある。
石田彩子(フルート)東京芸術大学卒業。第2回アジアフルートコンクール第1位(日本人初)を獲得し、ソリストとして活動中。自作曲の作曲等も多数手がけ、2023年には自作曲のみによる個展公演を東京都内ムジカーザにて開催し成功を納めた。
永野雅晴(打楽器・和太鼓)東京藝術大学を経て同大学院修了。Italy percussion competition スネアドラム部門1位無しの2位。第12回現代音楽コンクール「競奏」において、審査委員特別奨励賞を受賞。林英哲風雲の会としてヨーロッパツアーに参加

本公演
従事予定者数
(1公演あたり)
※ドライバー等
訪問する業者人数含む

出演者: 13 名
スタッフ: 3 名
合 計: 16 名

運搬

積載量: 0.6 t
車 長: 3.24 m
台 数: 2 台

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込		無		前日仕込所要時間		時間程度						
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去							
	8:50	9:00~11:00		13:30~15:00	10~15	15:00~16:00	16時30分						
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。												
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。	6月	7月		8月		9月							
	25日	15日		0日		20日							
	10月	11月		12月		1月							
	20日	20日		20日		20日							
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計		140日							
公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真) ※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡													
著作権、上演権等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否			該当あり	該当コンテンツ名		獅子踏青						
	該当事項がある場合	権利者名	JASRACに申請	許諾確認状況	採択後手続き予定								

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

あり

【公演団体名

Ensemble Levent

】

ワークショップの
ねらい

当団は、奏者が子どもたちと直接対話ができるワークショップを非常に重要な事業と考えます。管楽器の音色はその音に馴染みのない子どもたちには意外と認識しづらく、実際のコンサートの中で「今何の楽器の音が聞こえているのか」は大人であっても案外判断が難しい部分です。特に同じ音域になった場合は困難で、例えばトランペットとオーボエは音の鳴りはじめを切り取り、鳴っている間のみを切り取って再生すると全くどちらの楽器の音色かの区別ができなくなると言います。(参考;芥川也寸志著「音楽の基礎」)一人一人、人間の声帯が違いうように、管楽器にもそれぞれの音を発する「仕組み」があり、その仕組みを知り、体験することはそれ自体が子どもたちにとって新鮮な発見となります。それぞれ“なぜ音が出るのか”や“音の正体”に焦点を当て、子どもたちとの対話や本公演以上に「間近」で行う実演を交えたワークショップを実施することで、本公演へ向けて、楽器や奏者に興味を持ってもらうことをねらいます。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

1～100名程度

*上記以上の人数の場合も応相談にて実施可(最大500名)

ワークショップ
実施形態及び内容

WSテーマ『音の正体を知る。～楽器による発音の違い～』

編 成:管楽器奏者3名・打楽器奏者1名・ピアニスト1名の5名を基本とした編成

<形態>

音楽室または体育館にてアウトリーチ形式でのワークショップを行います。

一方的な講演形式ではなく、双方向性(アクティブラーニング)を意識し、子どもたちがより音楽、楽器、アーティストを身近に感じられることに主眼を置きます。また、実施内容(指導案)を事前に学校の先生方にお伝えすることで、生徒とともに先生方にも興味を持っていただきやすくし、“子どもと大人関係なく一緒に楽しむ”空間づくりを心がけます。(過去にも、「タンバリンだけで曲が演奏できるなんて、私自身が一番驚いたかもしれません!」と先生からご好評の声をいただく場面があり、その様子は子どもたちにも良い結果として伝わっていたように思います。)

<内容> →【別添あり】【別添】No.3ワークショップの実例】

①導入(楽団紹介とアイスブレイク)…オープニング『水上の音楽(G.ヘンデル)』演奏後、団体について簡潔に説明し、ワークショップについて大まかな流れとねらいについて触れます。また、奏者との交流のサイン及び本公演への一貫性の演出として指で団体名「Levent」の「L」と「V」をかたどるハンドサインを覚えてもらいます。(アイスブレイク)

②ホース体験による～“音”の正体～…「音の正体が空気の振動である」ということと「管楽器がまさに“くだ”である」ことを金管楽器のマウスピースをつけたホースを握ってもらうことで体験してもらいます。(体験生徒は最大50名ほど、大人数の場合は先生方にも体験してもらい生徒にフィードバックをしていただくことで共有する手法を取ります)手に伝わる振動が音域や音量によって変化することも感じてもらいます。

③金管楽器の発音の仕組みについて…冒頭の『水上の音楽』をバロックランペット(ピストンのない楽器)で実演し、児童の興味を惹きます。その後、金管楽器では唇の振動(＝バズイング)で音が出ていることを学び全員でバズイングを体験したのち、実際に「生徒用のマウスピース」を用意(最大40本用意)し、希望者中心に体験してもらいます。さらに、音が出た子などには体験用の楽器も渡すことで「音が出る」ことそのものを楽しんでもらいます。(実際の楽器で音が出るだけで他の生徒からも拍手が起こります。)

→その後金管楽器の独奏曲として『調子の良い鍛冶屋』による変奏曲(トランペット独奏)や、『チャルダッシュ(チューバ独奏)』などを聞いていただくことで、より楽器の魅力と奏者のすごさを伝えます。

④打楽器について…タンバリンやトライアングル、小太鼓など小中学生にも馴染みのある楽器の独奏曲を披露します。

⑤木管楽器の発音の仕組みと実演…フルートなどの木管楽器の簡単な説明の後、実演を行います。この際、奏者は演奏しながら生徒の間を歩く演出(場合によっては体育館に寝転んでもらったり、奏者の近くに来てもらったりもします)をすることで、より身近で“空気のふるえ”や文字通り“息づかい”を感じてもらい、管楽器の音が人間の呼吸から生まれることを体感してもらいます。

⑥まとめ…本ワークショップの総括と、ハンドサインの復習を行い、何に注目して本公演を聞いてほしいかを伝えます。

*実施対象の学年に合わせて馴染みのある曲(既習曲、「朧月夜」など)等を交えて実演します。

その他ワークショップに
関する特記事項等

各学校のピアノをお借りさせていただきたいです。

ピアノをお借りするにあたり、可能であれば事前に調律をしていただくことで演奏自体の質が上がるため、より良いワークショップの実施に繋がります。調律等が難しい場合やピアノを使用できない場合はピアノを含まない編成等にて対応も可能ですので、ご相談ください。

上記のワークショップのほか、その学校の実態に即した形で編成や内容を柔軟にアレンジさせることが可能です。基本的な内容は実施の軸として、その学校に必要な指導(歌唱、器楽、吹奏楽等)を考慮したワークショップの実施が可能です。

また特別支援学級でのワークショップ実績も豊富で、実際に子どもに楽器に「触れて」もらうセクションを積極的に取り入れるなど、音楽を“五感”で楽しめる内容で実施させていただきます。

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 Ensemble Levent 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。									
会場の設置階の制限		2F以上可(エレベーター必須)		主幹引き込み電源容量				A以上		
舞台設置面積	間口	12 m		奥行	8 m					
	高さ	指定なし		m						
舞台設置場所	フロア対応	可		学校のステージでの対応			条件が合えば可			
搬入間口の広さ	幅	2 m		高さ	2 m					
遮光の要否	不要		緞帳の要否			あれば使用する可能性がある				
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定			なし				
			ピアノを使用しない場合の移動の要否			不要				
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			20 m以内				
搬入車両の種類	普通車		台数	2 台						
搬入車両の大きさ	車幅	1.8 m		車長	2 m					
備考	普通車を校内に入れることができれば実施可能です。緞帳については条件が整う場合に限り緞帳を閉めてステージ上を出演者待機場所とする場合がございます。(その場合の別途控室等のご用意は原則不要です。)									

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否		
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		

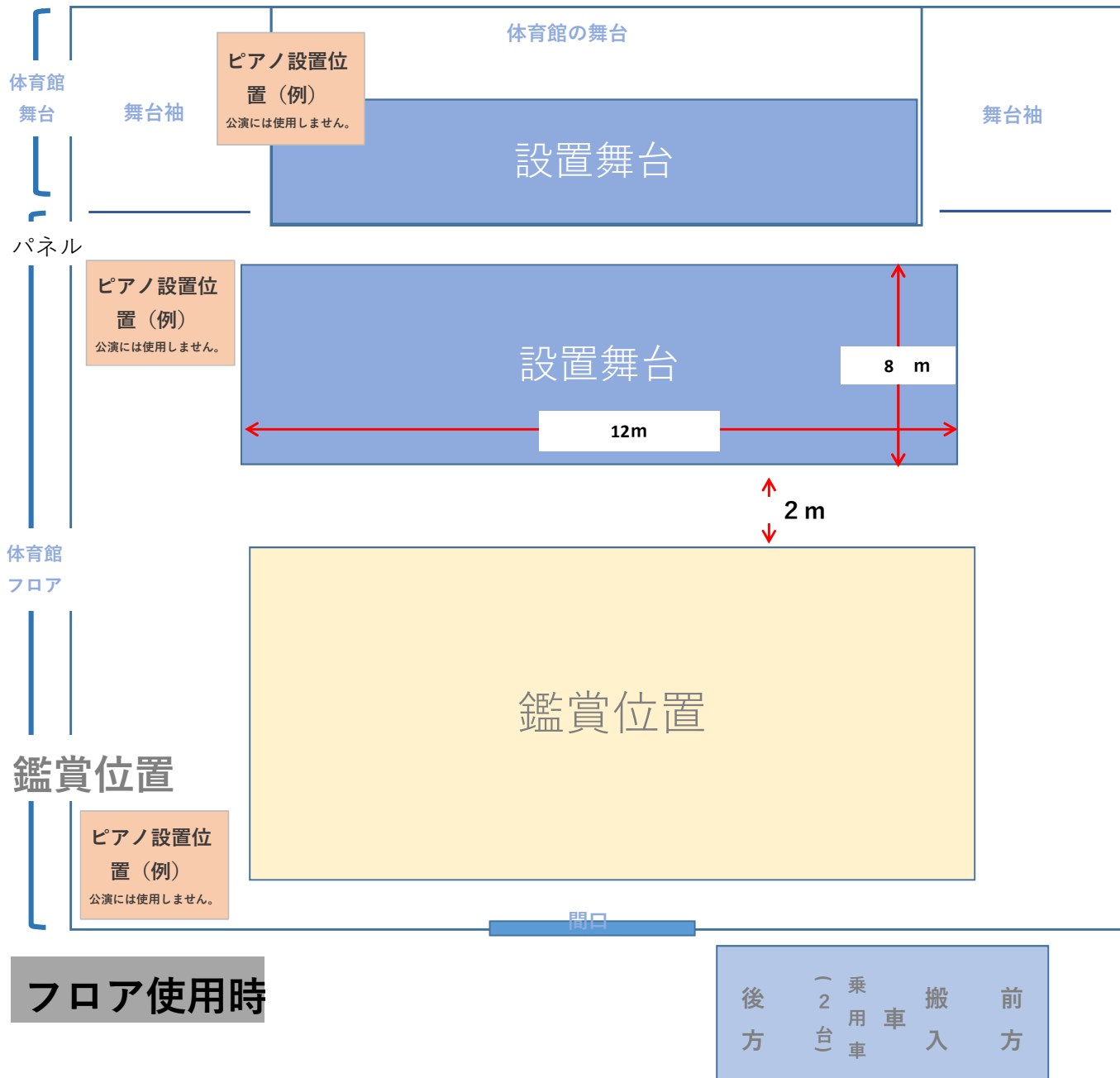
時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
	本公演					
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

(任意) 会場条件について最低限必由条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

会場簡易図面



別添	なし
----	----

【公演団体名	Ensemble Levent	】
--------	-----------------	---

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫	<p>【本事業を通じて実現したいこと】</p> <p>本事業を通して、芸術そのものの魅力訴求とともに当団が今を生きる子どもたちに伝えていきたいことは大きく下記の3つです。</p> <p>1. 「個」の魅力と人間力 : AI時代に「自分とは何か」を問われる子どもたちに対し、個々の奏者の際立った個性や人間性を感じてもらうことで、自分自身の良い在り方を見つめ、生きる上での糧にしてほしい。(=自己を肯定する力)</p> <p>2. 他者と協調することによるチーム力の最大化 : 個性を尊重した上で他者と協調することで生まれる、より高次元な「弁証法的集団(単に統率された集団ではない)」の魅力を保ち、「1+1=10」のような相乗効果があることを示したい。(例)ウィーン・フィル</p> <p>3. 日本文化を見つめる : 西洋の音楽と日本の楽器や音楽を対比・融合させることで、子どもたちに日本の文化について改めて感じてもらう機会を提供する。 →これらの想いを最大13人という「全員の顔が見えるアンサンブル」を通じて伝え、音楽そのものの魅力と共に音楽家の生き様そのものとの出会いが子どもたちの生きる力の一助になればと思います。学校には、音楽が好きな子も、そうでない子(難しいと感じている子)もいますが、音楽ではなく“人”そのものの魅力を伝え「この人が好き」と思ってもらえる公演創りを行うことで、結果的にはより多くの子どもに音楽文化に親しむ土壌を育んでもらえるものと考えます。</p>
	<p>【上記の実現に向けて、実施の工夫】</p> <p>1. 「個」の魅力と人間力 ←当プログラムは1名・2名・5名・6名、13名と演目ごとに編成を変えます。曲ごとに焦点が当たる「人」が明確になることで、より奏者一人一人に目を向けやすくするとともに、実際に奏者自身の子ども時代についても話してもらうなどすることで人と人を伝える工夫をしています。</p> <p>2. 他者と協調することによるチーム力の最大化 ←前述の通り、次第に編成を変えていく中で「音と音が美しく重なることは単純な音量の倍ではない」ということをプログラムで意図的に見せていきます。気持ち(向き)の揃った人同士の音楽は、それだけで人の心に訴えかける魅力を持ちます。</p> <p>3. 日本文化を見つめる ←なぜ日本人が西洋音楽(楽器)を演奏するのか。もしかするとそんな当たり前の問いを持つ子どもがいるかもしれません。プログラム中要所で和太鼓の音や今を生きる作曲家の作品を取り入れることで、日本文化を見つめてもらうきっかけを創ります。</p>
事業を適切かつ円滑に実施するための工夫	<p>【学校との連絡調整について】</p> <p>本事業を初めて担当される先生方や芸術分野が専門ではない先生方でも本事業を理解していただきやすいよう、実施校決定以降、(電話・メール・オンライン会議等の手段にて)</p> <p>①電話連絡によるご挨拶と事業趣旨の共有→②対面orオンラインでの顔合わせと公演に関する具体的なヒアリング→③「公演手配依頼書」(準備物や公演時間・内容等をまとめた団体独自のもの)送付→④WS・本公演の実施→⑤事後ヒアリング</p> <p>と段階的に進めていき、具体的なイメージをもって実施していただきやすくしております。また先生方に過剰なご負担を増やすことのないようシンプルなやり取りで完結するよう心がけております。</p>
	<p>【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】</p> <p>事前ヒアリングの際に実施校の「校風」や「児童の雰囲気」、どういったことに興味がある子が多いかなどなるべく「児童の実態把握」をしWS・本公演実施の際の参考にしています。また本事業の特徴の一つでもある「全国の団体が各地方に赴いての実施」を見据えた際に、出演者とその地域の接点を紹介したり、実施地域の特色を私たち自身が学んで司会で触れるなどすることで、日本各地のつながりを感じてもらったり、「親近感」を感じてもらいやすくなる工夫を取り入れます。また、そういった工夫をする中で音楽以外の部分で出演者と児童との接点や興味の交差点を見つけることもできると考えます。</p>
	<p>【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】</p> <p>巡回公演を実施した地域において当該年度内での『主催ホール公演の実施』に取り組んでいます。(2024年度:東京・2025年度:広島)。学校での鑑賞会を経て興味を持った生徒さんたちが実際にコンサートに行ってみようと思った際に、私たちがその地域で公演をすることは非常に重要だと考えており、実施校には積極的に優待や招待のご案内もしています。音響設備や非日常の空間が整ったコンサートホールへ実際に向かい音楽を聴く“きっかけ”を私たちが創ることが子どもたちの更なる学びへ助けになればと思います。</p>

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	Ensemble Levent	】
演目概要・演目選択理由	<p>【前半】～独りからアンサンブルへ～</p> <p>《和太鼓独奏》紅炎 / 永野雅晴 作曲 …和太鼓奏者として林英哲氏のツアーにも帯同する当団体打楽器奏者永野雅晴による完全自作曲。「日本人である私たちが西洋音楽を届ける」というこのコンサートをあえて「和楽器」から始めることで、子どもたち自身も“日本人の音楽”を思い出す(知る)狙いで選択した。</p> <p>《管打楽器13重奏》アルセナール / ヤン・ヴァン・デル・ロースト 作曲 …1曲目から一転し、全員で吹奏楽曲として有名なコンサートマーチを置く。爽やかなコンサートマーチは年齢問わず、親しみやすく、ウインド・アンサンブルの魅力を伝えるにも十分な一曲である。</p> <p>《木管5重奏》主よ、人の望みの喜びよ / J.S.バッハ 作曲 …クラシック音楽の父。バッハの響きを木管5重奏でお届け。木管5重奏は発音が違う楽器が集まって構成されており、楽器による音色の移り変わりがバッハの音楽とマッチしている。</p> <p>《金管5重奏》アメージング・グレース / 作曲者不詳 …Tp.ソロによる独奏に続いて、ディキシー風にアレンジされたこの楽曲は、世界的金管5重奏団「カナディアンブラス」の編曲。金管楽器ならではの美しく気持ちのよいハーモニーが響く。</p> <p>《指揮者体験》アルセナール / ヤン・ヴァン・デル・ロースト 作曲 …ここで冒頭にお届けした『アルセナール』による指揮者体験を行う。シンプルなマーチ(2拍子)のため、音楽に苦手意識がある子どもでも挑戦しやすい。テンポや強弱といった子どもごとの変化もわかりやすく出るため、児童も盛り上がりやすく、次の曲に向け肩の力を抜いてもらう時間に。</p> <p>《管打楽器13重奏》パンチネロ / アルフレッド・リード 作曲 …当団体が大切にしている作曲家A.リードの楽曲を公演のメインに据える。素晴らしいオーケストレーションと、充実した音楽は感受性豊かな時期にこそ届けたい「本物の音楽」です。</p> <p>【後半】《みんなで決めよう！今、あなたが聞きたいのは？！》 事前にお渡しする音源用CDから投票いただき、当日発表で子どもたちが聞きたい曲を演奏します。</p> <p>選択①《ソプラノサックス+フルート独奏》リパルタンゴ/A.ピアソラ作曲 …「自由なタンゴ」の意。タンゴの異端児と呼ばれたピアソラが残した作品の中でも最も有名な一曲。ソプラノサックスとフルートの独奏による疾走感あふれる一曲。</p> <p>選択②《アルトサックス独奏》サキソフォビア/ウィードフ作曲 …「サックス恐怖症」という不思議なタイトルのついたこの曲。曲名とはうらはらに、サキソフォンのキャラクターが存分に発揮され、演奏中生徒の中に入っていく演出では子どもたちもつい笑顔になる。</p> <p>選択③《トランペット独奏》トランペット吹きの休日 / アンダーソン …華やかなトランペットの音色と馴染みのあるメロディが特徴のアンダーソンの代表作。</p> <p>《管楽6重奏+和太鼓》獅子踏青(ししとうせい)～新緑に覗く獅子の舞～/中村匡寿 …2024年に当団体が若手作曲家の中村氏に委嘱した作品(2024年サントリーホールにて初演)。本来は木管5重奏と尺八による楽曲だが、本事業では尺八のパートをソプラノサックスで演奏する。西洋楽器と和太鼓による東西の融合による独特の響きはグローバル社会を生きる子どもたちにどう聞こえるのか。</p> <p>《打楽器二重奏》ハムシン/セジヨルネ or Double/永野雅晴 …打楽器2名によるアンサンブル。マリンバを前後に挟んで演奏する「ハムシン(“砂嵐”の意)」または2台のスネアドラムを目まぐるしく演奏する『Double』のいずれかを学校(小中)ごとに演奏する。</p> <p>《管打楽器13重奏》シング・シング・シング / ルイ・プリマ 作曲 …プログラムの最後は和太鼓とは打って変わって「ドラム」の活躍するこの曲は、思わず体が動き、手拍子したくなる。音楽の三要素の中でも特に「ビート(拍)」が国境を超えること、国ごとに異なる音楽の魅力を感じて、プログラムを締めくくる。</p> <p>【アンコール】各校校歌・ラデツキー行進曲</p>			
	<p>(演奏時間:約90分)</p>			



体育館後方をステージにし後方の生徒の近くで演奏



客席(生徒の中)に入っていく演出



別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	Ensemble Levent	】
出演者	プロフィール(概要)	<p>石田彩子(フルート) 東京芸術大学卒業。第2回アジアフルートコンクール第1位(日本人初)。自作曲の作曲等も多数手がける。</p> <p>佐竹真登(オーボエ) 日本フィルハーモニー交響楽団オーボエ奏者。第85回日本音楽コンクール第2位。</p> <p>西澤いずみ(クラリネット) 東京芸術大学を経て同大学院修了。卒業時に学内で選抜され第32回ヤマハ新人管打楽器演奏会出演</p> <p>楠木慶(クラリネット・賛助メンバー) 東京芸術大学音楽学部卒業。2014年日本フィルハーモニー交響楽団に入団。現在、副首席クラリネット奏者を務める。第33回日本管打楽器コンクール第2位。</p> <p>大内秀介(ファゴット) 第36回日本管打楽器コンクールファゴット部門第1位及び文部科学大臣賞、東京都知事賞、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団特別賞を受賞。日本フィルハーモニー交響楽団ファゴット奏者を経て、現在はNHK交響楽団契約団員を務める。</p> <p>山崎憂佳(サクソフォン) 東京芸術大学卒業。第34回高知音楽コンクール 第2位。自身が主宰するユニット「海藻姉妹」での活動も多数おこなう。</p> <p>古土井友輝(トランペット) 東京芸術大学卒業。フリーランスのトランペット奏者として都内のオーケストラをはじめ多くの団体へ参加している。</p> <p>重井吉彦(トランペット) JEJU国際コンクール金管5重奏部門第1位。東京フィルハーモニー交響楽団を経て2021年後期より読売日本交響楽団トランペット奏者。</p> <p>金子美保(トランペット) 東京芸術大学卒業後、スペインのソフィア王妃高等音楽院修了。Reinhold FriedrichとManuel Blancoのクラスで学び優秀賞を受賞。第10回関西トランペットコンクール課題曲部門、オーケストラスタディ部門両部門第1位。第18回東京音楽コンクール入選。第90回日本音楽コンクール第2位。</p> <p>堀口はるな(ホルン) 東京音楽大学を経て、同大学院を修了。大学在学中、学内のオーディション合格者によるソロ・室内楽定期演奏会、管打楽器専攻生による卒業演奏会に出演。セイジ・オザワ松本フェスティバルOMF室内楽勉強会～金管アンサンブル～、ローム・ミュージックファンデーション音楽セミナー2017に参加。</p> <p>竹内優彦(トロンボーン) THE ORCHESTRA JAPAN 団員。Trombone Quartet 虎徹 Kotetsuメンバー。横浜市立戸塚高等学校音楽コース特別非常勤講師(トロンボーン講師)。</p> <p>兼清颯(ユーフォニアム) 東京芸術大学卒業。第21回コンセール・ヴィヴァン新人オーディション優秀賞受賞。NPO法人音楽ネットワークのオーディションに合格し文化庁「文化芸術による子どもの育成事業」にユーフォニアム奏者として参加。Ensemble Levent代表。</p> <p>芝宏輔(チューバ) 東京芸術大学卒業。卒業時学内にて選抜され第31回ヤマハ管楽器新人演奏会に出演。第30回市川新人コンクール管打楽器部門優秀賞受賞。</p> <p>永野雅晴(打楽器・和太鼓) 東京芸術大学を経て同大学院修了。Italy percussion competitionスネアドラム部門1位無しの2位。第12回現代音楽コンクール“競楽”において、審査委員特別奨励賞を受賞。林英哲風雲の会としてヨーロッパツアーに参加</p> <p>永野仁美(打楽器) 東京芸術大学を経て同大学院修了。音楽療法を学び、対象者に寄り添った音楽の使い方を自らの演奏活動に取り入れるなど、「人の為の音楽」を追求すべく研究・活動を重ねている。</p>		

リンク先

No.3-①

【公演団体名

Ensemble Levent

】

(様子1) 団体名を覚え親しんでもらうためのハンドサイン (上WS・下本公演)

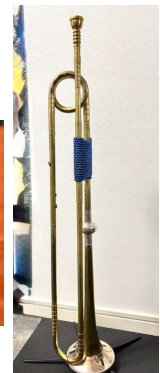


(様子2) ホースを触ってもらう体験

(様子3) マウスピース体験・楽器体験



体験用マウスピース (最大40本用意可能)



バロックトランペット (楽器の起源に触れる)

(様子4) 「音」に触れる *特別支援学級など



(様子5) 自由な位置での鑑賞の促し

ワークショップ
実施形態及び内容